

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400598		
法人名	株式会社 エステートホーム		
事業所名	サロン・ド・フレール羽島		
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町丸の内9丁目53番地		
自己評価作成日	2019年7月22日	評価結果市町村受理日	2019年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/1/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&I_gyosyoCd=2170400598-00&Servi_cd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	2019年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ご家族との交流を意識し、年に数回の食事会や行事などに参加をして頂きご家族とゆっくりと過ごす時間を大切にしている。 ご家族が希望や要望を伝えやすい様、面会時などは、個別にゆっくりとお話しを聞く時間や場所を提供し、話しやすい雰囲気や日々のコミュニケーションを意識している。 家庭的な雰囲気を大切にし、季節感や旬の食材を使用したの献立の提供を心がけている。テラスでは季節の花や野菜を栽培し、ご利用者の方と一緒に世話をしている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念を理解して実践するように、全員が「響きあい」の体験を会議で発表して取り組んでいる。各自が行った自己評価を会議で話し合い、事業所の取り組み状況を外部評価の前に運営推進会議で報告して意見を聞いている。研修後にはレポートを提出し、会議では発表する機会が多く、職員一人ひとりが日々のケアを振り返り、情報を共有しながらケアに活かしている。市民の森や文化センター・買い物や喫茶店に出かけて、挨拶を交わし顔見知りになり、利用者が地域の一員として暮らせるように支援している。家族を行事に招待して一緒に食事を楽しんだり、外出の協力を得たりして利用者と家族の関係を大切にしている。消防・避難訓練時は、毎回訓練後に反省点を話し合っって再度訓練を行い、消防署の総括を次回の訓練に繋げている。地域住民と災害時の協力について話し合い協力関係を築いている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念は開設時から変更しておらず、職員全員が意識してケアにあたる様、月2回のユニット会議にて響き合えた事を発表している。新人職員には研修にて具体的な言葉で説明し理解に努めている。	話しかけたり、手を握ったりして穏やかに笑ってもらえた事「響きあい」を全員が、会議で発表している。新人には過去の体験談を話し、理念の実践として、利用者の思いに地道に向き合う事と伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、子ども110番の窓口にもなっており、資源回収にも協力している。日常的に買い物や散歩、外食など地域へ出かけ交流を意識している。	散歩や買い物・地域の祭りや行事に出かけている。地域の人から野菜や介護用ベットの寄付を受けたり、介護に関するアドバイスを求められたりしている。地域ボランティアの訪問などがあり、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の方を通じ、地域の方の相談があれば来所や電話での対応をしている事を伝えている。電話での問い合わせ時には解りやすく質問に答える様、努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員の方から災害時の避難場所について不安があるとの訴えがあり、施設として出来る限り協力させて頂く事を説明している。会議終了後にはご利用者の方とゆっくり談話をする時間を設け話しやすい雰囲気を大切にしている。	自己評価表報告など多岐にわたり話し合っている。災害時の避難場所についての不安に対し、事業所2階の使用を申し出た。ヒヤリハット報告に対する意見は、会議で話し合いサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1回の空室情報や研修参加などを通じて交流を意識している。運営推進会議の場ではケアの取り組みについて随時報告をしている。	運営推進会議の案内や空き情報・事業所の状況報告などで市担当者を訪問している。市主催の研修会に参加して情報や意見交換をし、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正委員会を通じ、身体拘束をしないケアについて月1回話し合う機会を設けている。又全体として年に2回、研修を実施し理解に努めている。現在、身体拘束を行っている方はいない。	身体拘束をしないケアについて、毎月具体的な例を挙げて話し合い、年2回社内研修でのレポートを全員が提出し、内容を理解して取り組んでいる。言葉や対応が気になる時は、その場で互いに注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回身体拘束の研修を通じて学ぶ機会がある。1か月に1度、身体拘束適正化委員より話し合う機会もある。言葉が強くなっている時は個別で注意をしたり職員同士が注意し合える関係を築いている。		

サロン・ド・フレール羽島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設での研修にて学ぶ機会がある。現在、2名のご利用者が成年後見の制度をご利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の相談時には納得、理解をして頂ける様十分な説明を行い、不安や疑問が残らない様にしている。施設として出来る事、出来ない事など誤解に繋がらない説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や行事、面会時などを活用し居室や事務所にてゆっくりと落ち着いて話が出来る環境を提供している。気軽に意見や希望を伝えて頂いている。	家族の訪問時は必ず意見や要望を聞いている。管理者は、気軽に事務所に立ち寄り、話が出来る雰囲気を作っている。家族の訪問も多く、色々な話を聞くが、運営に関する意見や要望などが無い。	話しやすい関係をさらに深め、運営に関することまでの意見や要望を出してもらえる取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1度、1対1でのヒヤリングを行い職員の意見を聞く機会がある。日頃から職員とのコミュニケーションを意識し、職員の意見や提案を可能な限り反映できる様にしている。職員の意見で10時、15時のミニレクを取り入れている。	管理者は、言いやすい雰囲気を作り、日頃から意見や要望を聞いている。個別面談では、勤務時間などの個別の要望も聞いている。出された提案や要望はケアに活かしたり、勤務調整をしたりして改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を利用し職員を公平に評価する機会がある。能力に応じ昇給出来る。雇用条件も本人の希望に合わせ対応し、勤務の調整もしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修を受ける機会を提供している。資格取得に向けた勉強会の実施や勤務調整をしている。今回、介護福祉士の合格職員もおり、現在準備中の職員もいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	G・H協議会の研修参加を通じ、他の事業所と交流する機会がある。研修の場では情報交換をしている。		

サロン・ド・フレール羽島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人やご家族からのお話をしっかり伺い、信頼関係の構築を意識している。入居後は居室に訪問し個別にお話を伺う時間をもちコミュニケーションを意識している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時や契約時には、ご家族の不安や要望を伺い、問題解決に向け具体的な話をしている。面会時や電話での情報交換にて信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時には、ご本人やご家族に詳しく話を伺い、今何を必要としているか見極め、必要であれば、他の施設やサービスなどの情報提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事、出来ないことを見極め日々の生活の中で自信に繋がるケアを目指している。料理の提案をして下さる方もいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族を招いての行事や食事会を通じ、ご家族と過ごす時間を大切にしている。食事会では、ご家族同士の交流の場ともなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人やご近所の方が訪ねて来られた時は、ゆっくりと過ごして頂ける様、努めている。地域へも積極的に出かけている。	本人・家族の情報から馴染みの人や場所を把握し、喫茶店などに出かけている。美容院や法事・通夜の送迎もしている。大学の友人や手芸教室の生徒の訪問など大切にして馴染みの関係が継続できるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビング以外に随所にはソファやテーブルを配置している。ソファに座り、ご利用者同士談笑される姿もある。		

サロン・ド・フレール羽島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後、使わなくなった車椅子を寄付して下さる方もいる。又地域に出かけた際に偶然出会い、懐かしくお話をさせて頂く事もある。知人の介護相談を受ける事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中から思いや意向の把握に努めている。ご本人から行きたい所や欲しい物の希望を直接伝えて頂ける方もあり一緒に掛ける事もある。	入浴やお茶の時間に行きたいところや欲しい物などの思いを聞いている。言われない人にも同じように必ず声をかけて、返事をもらえるような問いかけを工夫しながら思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時にご本人やご家族からお話を伺い、これまでの生活歴を踏まえ個々に合わせた対応に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者が自分のペースを大切に出来る様、無理強せずその人らしく過ごして頂ける様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族に意向を尋ね介護計画を作成している。又担当職員がモニタリングを行い、ユニット会議で発表してもらい現場の意見が反映できる様、意識している。	普段から本人・家族に介護計画の要望を聞いている。目標に対する評価を毎日記録して、3ヶ月ごとに担当職員がモニタリングを会議で発表し、意見を出し合って作成している。状態変化時は随時見直し変更もしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送り、職員同士のノートを活用し情報の共有に努めている。月2回のユニット会議の場でも自由に意見交換し実際に実践する事もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の変化するニーズの状態に合わせて柔軟に介護計画の見直しをしている。		

サロン・ド・フレール羽島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物や散歩、外食など地域に出かける機会を通じ、ふれ合いを大切にしている。又地域ボランティアの受け入れもあり、交流する機会を持っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に引き続き、往診を受けている方もいる。又現在は、入居前の歯科医の往診を定期的を受けている方もいる。眼科、皮膚科受診の協力もしている。	入居前からのかかりつけ医の訪問診察を受けている利用者もいる。かかりつけ医と事業所とは、急変時の往診や連携も取りやすい関係がある。専門医受診は、家族の希望があれば送迎に応じている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの24時間オンコール体制を確保している。週に1度の訪問時などアドバイスを頂く事や主治医との連携もしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居中のサマリーを渡し、細かな情報提供をする事でご利用者が安心して治療を受けられる様にしている。又面会時には担当看護師からの情報収集、情報の共有に努め早期退院に向け協力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には重度化した場合や終末期についての説明と同意を得ている。ご利用者の身体的状況により、その都度、ご家族と方向性について話し合う機会を持っている。過去に看取りを行った事例もある。	入居時に事業所の方針を説明し、状態に応じて本人・家族と話し合い、意思の再確認をしている。終末期は医師が家族へ説明し、方針を共有して取り組んでいる。管理者は、看取りの対応に関する教育をしている。家族が泊まって最期まで寄り添えるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルに沿って対応出来る様ユニット会議で周知している。救急対応時に的確に対応できる様、個別の既往歴や必要な情報が伝えられる様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に4回消防訓練を実施。風水害、洪水についての研修も行っている。夜間帯を想定した訓練では、実際の人數体制で訓練をしている。施設には3日間の備蓄品、必要物品が1階、2階に配置されている。	夜間想定2回を含め年4回消防・避難訓練を行っている。それぞれの訓練後、反省点を見つけて再度訓練を行っている。自治会に地域住民の一時避難場所として事業所2階を提供し、地域との協力関係を築いている。	

サロン・ド・フレール羽島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声かけ、支援に努めご利用者の人格を尊重している。排泄や入浴時は特に羞恥心に配慮したケアを心がけている。研修に於いても学ぶ機会がある。	入浴や排泄時のケアに気を配り、声のトーンや馴れ馴れしくならない言葉遣いに気を付けている。全職員が、接遇などの研修を受けてレポートを提出することで日々のケアを振り返っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	施設で可能な限り、ご本人の意思を尊重している。意思表示の出来ない方は、日々の様子や表情により思いをくみ取るケアに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望や意思を尊重し、業務の変更や調整をしている。職員に希望を気軽に伝えて頂ける方もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で出来ない方は職員が身だしなみに気を配っている。一緒に出掛け好みの洋服を購入する事もある。希望にて近所の美容院に行く方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物がある時は、気軽にリクエストをして下さり、提供している。行事の時などホットプレートを使用し焼きそばを作った事もあり、盛り付けなども手伝って下さる。	利用者の希望を取り入れた献立で、利用者で育てた野菜を調理し、一緒におにぎりづくりや盛り付けをしている。テラスでランチをしたり、家族を招待して一緒に食事をするなど楽しむ事ができる支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事形態にて提供している。水分摂取が少ない場合は、他の好きな物で摂取して頂いている。個別に購入されている方もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしている。自己にて出来ない方は職員がケアをしている。状態に合わせて口腔補助具の使用やスポンジでのケアにて清潔を心がけている。歯科の往診を受けている方もいる。		

サロン・ド・フレール羽島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使い、個々の排泄パターンを把握し事前の誘導を意識している。自立している方もさり気なく汚れがないか確認し清潔保持に努めている。	夜間のみポータブルトイレを使用する人もいるが、昼夜とも時間を見計らってトイレへ誘導している。皮膚の清潔を大事にしながら排泄の自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご飯を炊く際に麦を混ぜている。排便のない日が続く時には、起床時に冷たい牛乳を飲んで頂く事もある。10時15時には体を動かす機会を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時は、入浴剤や季節によりゆず湯にする事もある。午後にゆっくりと入りたい方は午後の時間を利用し入浴をしている。	一日おきの入浴であるが、希望によって毎日可能である。一人ひとり湯を入れ替え、湯温・湯量・入浴剤など好みに合わせている。入浴時間を気にせず、おしゃべりしながらゆっくり楽しむことができるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日はシーツの洗濯や布団干しを行っている。室温や布団の調整をし心地良く眠って頂く様に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋内容を職員がいつでも見て確認できる様にしている。薬の変更時はその都度申し送り、確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状態に合わせて食事の手伝い、洗濯たたみなど協力をして頂いている。テラスの水やりを毎日の日課としている方もいる。野菜の収穫を一緒に行う事もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望の品を買いに出かける事や希望により美容院へ出かける方もいる。ご家族とランチや自宅で夕食を家族と食べに行かれる方もいる。	車椅子の人も一緒に散歩がてら、近くの市民の森や文化センターに出かけている。買い物や喫茶店・美容院に行ったり、家族と出かけた一人ひとりに合わせた外出支援を行っている。県外への遠出希望する時は、家族に伝え実現するよう支援している。	

サロン・ド・フレール羽島

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	規定によりご本人がお金を持つ事はないが外出時の買い物時など支払いなどして頂く事はある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は、直接電話をされる場合もある。旧友や親戚から年賀状が届く事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや壁面などは季節の飾り付けや季節の花を飾り季節感を感じて頂く様にしている。室温管理にも注意し直接エアコンの風が当たらない様に配慮している。夏の日差しを和らげるため、テラスには緑のカーテンを植えている。	テラスに花やゴーヤを植えて日差しを和らげながら季節感を採り入れている。廊下に行事の写真を貼り、家族訪問時の話題を提供している。廊下の隅々にソファーや机を置き気の合った者同士や一人でもゆったりできるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下には、ソファーを設置している。仲の良い方同士、談話する姿も時々見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	数十年前に買った自慢のマッサージチェアを居室に置いている方、ご家族の写真を飾っている方、着物の仕立てをしていた方は、帯を飾られている方もいる。	使い慣れた布団・衣装ケース・テレビ・時計を持ち込み、ぬいぐるみや趣味の帯・家族写真を飾っている。ベットの位置をアドバイスして安全な動線を配慮しながら居心地よく過ごせるよう家族と一緒に居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱がない様に看板の設置や居室入り口には、ご自分の名前の表札を張っている。さり気なく、誘導をする事もある。		